

- トップコラム／活動写真弁士 澤登 翠
- Landauer通信／〈その4〉北京ランダウア社 (BJLDR)
- 放射線にかかわる偉人たち／〈第12回〉ブラッグ親子
- お願い／年度末の特別なご依頼について
- ご案内／〈ルクセルWeb〉がつながり易くなりました

ト
ッ
プ
コ
ラ
ム
63



澤登 翠

無声映画の楽しさ

映画を初めて見たのは小学生の頃。近所のお姉さんに連れられて、東京・新宿の名画座で見た「禁じられた遊び」や「白雪姫」などが強く印象に残っています。「白雪姫」の女王がお婆さんに姿を変えて、白雪姫に差し出した毒リンゴの暗い紅色、怖かったですね。夜、うなされたりして。映画の影響はすごいんだ、ということは小さい頃から体感していたみたいです。

白黒テレビで放映された「拳銃無宿」「ローハイド」「パパは何でも知っている」「うちのママは世界一」といったアメリカ製ドラマも忘れられませんか。スティーブ・マックィーンが孤独な賞金稼ぎに扮した「拳銃無宿」の辛口な味。アカデミー監督賞をとる今日の姿は想像もできなかった、若い、つっころばしのお兄ちゃん風クリント・イーストウッドがカウボーイ役で出ていた「ローハイド」。確か、カウボーイたちの食事係がいましたね、ウィッシュボンというおじさんがいて、猫を連れて牧童たちと旅をしていたように記憶しているんですが…。牧童たちがブリキのカップでコーヒーを飲む、そのシーンが妙に好きでした。その後、大のコーヒー党になったのはもしかして「ローハイド」のお蔭？

と、こんな訳で、映画は昔から好きだったんですが、まさか、無声映画を語る弁士になるなんて、思ってもみませんでした。

1972年に、名匠溝口健二監督の無声映画「瀧の白糸」(1933年作品)を見たのが、弁士になるきっかけでした。泉鏡花原作の悲恋物で、当時最高の美男・美女スター、入江たか子・岡田時彦の研ぎ澄まされた端麗さが画面から香り立ち、恋する男性に全てを捧げて悔いない水芸師“瀧の白糸”の凛とした生き方に、魂が揺さぶられる深い感動を味わいました。

この時、弁士をつとめていらっしゃったのが今は亡き松田春翠先生で、直ちに入門。以来35年間、自分でもよく続いたと思うんですが、師匠はじめ多くの方々のお力添えで歩んで来ることができました。

無声映画は色々見て行くと面白いんです。今だったらCGで処理してしまうような群衆シーン、特撮も、1910～20年代は、もの凄い数のエキストラや、涙ぐましいローテク特撮で撮っているんですね。フリッツ・ラング監督のドイツ映画「メトロポリス」(1926年)も、おびたしいエキストラが一種幾何学的な動きをして、その人たちの作り出す量感が、“動く絵画”のような詩的效果を画面に与えています。

それと、あの時代には、今も輝き続ける天才が何人も出ました。チャールズ・チャップリン、バスター・キートン、グreta・ガルボ、阪東妻三郎、大河内傳次郎…。多彩です。映画がまだ新しい、最先端の娯楽だった時代ですから、映画人たちも若かった。映画全体が思春期～青春期で力が溢れていたんですね。

チャップリンの「黄金狂時代」。アラスカで金鉱探しをするチャーリーが、大男と山小屋に閉じ込められてしまい、飢えに苦しんだ揚句、靴を煮て食べるという有名な場面。状況としては悲惨なんですが、いとも紳士的に靴ヒモなど口に運ぶチャーリーは滑稽です。悲劇が喜劇となないまぜになっている、表裏一体となっている、そのコワさ。まさに人生そのもの。チャップリンの洞察力が光ります。

時代は進んだかに見えて、人間の本质は変わっていない、いえ、逆に衰えているんじゃないか？ 無声映画に登場する人間たちの方が、今の人間より生き生きしているように見えるのはなぜ？と、そんなことを、邦・洋様々な無声映画から感じとることができるんですね。

そんな面白さと、銀幕に微笑む、すこぶる魅力的な美男・美女、名優、怪優を見る愉しさ。だから弁士はやめられません。

皆様もぜひ一度、御覧になって下さい。“人間力”いっぱいスターたちが、スクリーンで皆様をお待ちしています。

.....

さわと みどり(活動写真弁士)

プロフィール 東京都出身。法政大学文学部哲学科卒業。故松田春翠門下。伝統話芸としての活弁の継承と発展に努める。国内は元よりフランス、イタリア、アメリカ他海外にも招かれ活弁を披露。外国公演の成果により1989年度日本映画ペンクラブ賞受賞。フィルムセンター、NHK、東京国際女性映画祭等でも弁士を務めている。2000年に山路ふみ子文化財団特別賞、2002年に文化庁芸術祭優秀賞(演芸部門)受賞。洋画から現代劇、時代劇とレパートリー多数。これまでに500本以上の無声映画に活弁を付けている。「家庭画報」他に映画紹介やエッセイも執筆。著書「活動弁士 世界を駆ける」。2007年に弁士35周年を迎える。



中華人民共和国

北京ランダウア社(BJLDR)

王 蒙



北京ランダウア社(BJLDR)は、米国ランダウア社と中国企業3社の共同合弁会社として1999年4月に誕生しました。2000年8月、National Technology Supervision Administration(国家技術監督部)によりアルノア社製TLDシステムの認可を受け、2001年1月に営業測定サービスを開始しました。また同年11月、リング及び中性子用バッジの認可も受けました。2005年にはGeneral Manager(総経理)の白氏が引退し、私がお後を引継ぎました。様々な努力の結果、BJLDRは2006年度の会計年次で経営が軌道に乗り、2006年から線量測定サービスをTLDからOSL/InLightサービスに変更を開始したところです。



InLight線量計の測定

中国では1980年代の終わり頃まで、個人線量モニタリングは一般的ではありませんでした。しかし、2002年5月、Occupational Disease Prevention Law(職業病予防法)が制定され、放射線従事者は個人線量モニタリングをしなければならないと厳密に義務付けられました。中国においてこの法律は、その分野で最も権威があり、また厳しく規制されています。2003年4月、新しい放射線防護基準である中国国家標準のGB 18871-2002(GB規格: Fundamental Standards for Ionizing Radiation Protection and Radiation Source Safety: 電離放射線に対する防護と放射線源の安全に関する基本標準)が公布・施行され、その中で個人線量モニタリングに関する事項が規定されています。BJLDRは唯一の民営放射線モニタリング会社で、この法律・規制に従って政府サービス機関のCDC(Chinese Center for Disease Control and Prevention)と同等の格付けがされています。

現在までの中国では、全体として個人線量モニタリ

ングサービスの市場が公開されている訳ではありませんが、徐々に進展はしています。BJLDRが設立された1999年頃、個人線量モニタリングは、各地方自治体の行政機関が管理を行い、料金の徴収等もそれら行政機関が行って来ました。しかし2000年になると、政府により経営管理システムの見直しが行われ、主に健康面を管理する地方自治体は、管理とサービスの業務を2つに分けました。また政府の新しい機関CDCが業務を開始し、そこへサービス業務が割り当てられました。この改革により、中国政府は統一された重層的CDCシステムを築き上げました。地方から中央まで、郡、市、省の各CDCができ、更に北京には国のCDCがあります。これらCDC全てが個人線量モニタリング業務を行い、そのほとんどが専用の測定部門を持っています。中国における放射線従事者は20万人くらいしかいませんが、政府のサービス機関は約250箇所あります。それら機関の料金は非常に安価ですが、測定設備は簡単なもので、品質も改善の余地があります。またこれらの政府機関は、線量測定以外に、放射線従事者への教育、資格証明書の発行、健康診断、レントゲン装置の認可とその試験など、多くの業務を担っています。従って、CDC以外への測定依頼には抵抗があり、BJLDRにはハンディキャップがあります。

しかしBJLDRは決して努力を惜みず、現在までに行われてきた営業及び販売実績により、この業界において非常に有名になりました。また中国一大きな測定部門を持っていることでも有名です。BJLDRの技術力とその品質はCDCのサービスよりも国際標準に近く、優れたものとして受け入れられつつあります。中国は、WTO(世界貿易機関)への加盟と内政改革の深化を背景に、確固としてモニタリングサービスを民間に開放しようとしています。将来、全ての行政機関のサービスは、確実に民営化されると期待しています。BJLDRは既に堅固な城砦を突破しており、疑問の余地なく輝ける未来のある企業です。

(日本語編集: 三浦 弥)

王 蒙さんプロフィール

1966年生まれ。1989年に北京清華大学・環境工学部を卒業。1992年にCIEA(中国原子能科学研究所)の保健物理学修士。同年よりCNNC(中国核工業総公司)で技術および管理の業務に従事。2000年、電力会社のIT部門でCMOとして勤務。2004年3月、副総経理として北京ランダウア社に入社。翌年、総経理。

放射線にかかわる偉人たち

第12回

ブラッグ親子

ウィリアム・ヘンリー・ブラッグ(1862～1942)

イギリスの物理学者。息子との共同研究により、ノーベル物理学賞を授与されました。

希望を胸に、いざ行かん

1862年、イギリスのカンバーランド生まれ。農場経営者の長男として誕生し、母を早くに亡くしました。数学を得意とし、全寮制の学校で勉学に励んだ後、ケンブリッジ大学へ進学。大学卒業を間近に控えたヘンリーは「アデレード大学の教授職」の公募を知ります。偶然会ったJ.J.トムソンの助言もあり、応募してみたところ見事手中に。かくして^{ほくどつ}24歳の大学教授は意気揚々と大海原を越えたのであります。

遅咲きの花を咲かせよう

新天地オーストラリアでヘンリーを迎えたのは、開設まもない、満足な研究器具も揃っていない若い大学でした。しかし彼は全てハンドメイドでありながら正確な結果を生み出す、精巧な実験器材の作成能力を開花させます。また科学の普及に努めた一般市民向けの明瞭な講演は人気を博し、敬慕に値する人物としてアデレードで知られるようになります。やがて講演原稿の材料を探していた時のこと、キュリー夫人の論文との出会いが、ヘンリーの生活を不惑にして研究メインへと一変させるのです。

最悪で最高な人生

リーズ大学からの誘いもあってイギリスに戻った彼でしたが、「植民地上がりの教授」という冷たい空気にさらされます。失意の中の光明は、ラザフォードとの交信と、物理学者としての道に進んだ息子との共同研究でした。「息子が理論を考え、父が実証する」というスタイルで、「ブラッグの法則」を発見し、1915年、息子とノーベル賞を共同受賞します。

栄光の陰で - SIDE A -

受賞後は講演依頼が山のように舞い込み、忙しい日々を送ることになります。しかし、賞賛の声は息子と共にではなく、年長者のヘンリーにほとんど向けられたため、親子仲は微妙なものとなりました。以来、共同研究をすることもなく、お互い独自の道を究めます。ヘンリーはラジオ出演に積極的に参加したり国政に携わったりと科学の普及に努め、1920年のナイト爵をはじめ様々なタイトル、会長職を得て死の間際まで仕事に生き、1942年、ウェストミンスター寺院でしめやかに

に葬儀が行われました。

ウィリアム・ローレンス・ブラッグ(1890～1971)

ヘンリーの息子で、オーストラリア生まれの物理学者。ノーベル賞史上最年少の受賞者でもあります。

温かい家族が僕の宝物

オーストラリアのアデレード生まれ。ヘンリーと、オーストラリアの天文学者チャールズ・トッドの娘グエンドリントの間に長男として誕生しました。第1人と妹1人の3人兄弟で、弟に比べると運動は不得手でしたが、父譲りの明晰な頭脳と母譲りの芸術的な気質を併せ持った、内気で物静かなこどもでした。

父の背中を見て育ち

15歳でアデレード大学に入学。大学では父の部屋によく出入りをし、勉強だけでなく父の公務も目の当たりにしていました。父の一貫した科学、教育に対する姿勢は、後にローレンス自身が施す教育改革の実践に大いに影響したようです。18歳で卒業すると、父と一緒にイギリスへ渡り、ケンブリッジ大学に入学しました。父の勧めもあって数学から物理へ転向。首席で卒業を果たします。卒業後は研究のため、大学内の研究所に留まることにしました。

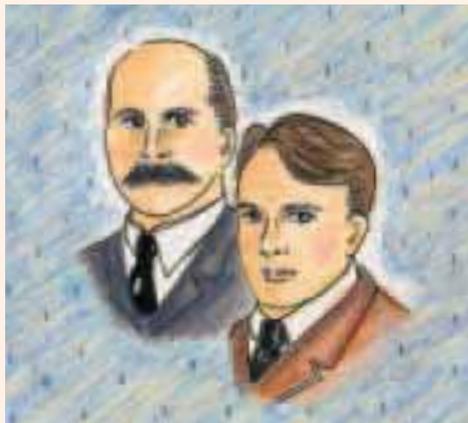
素直になれなくて - SIDE B -

1912年から1914年までの研究所の2年間はこの上もなく幸福でした。

ローレンスが発見した理論を、父と二人三脚で次々と実証していきます。そして25歳という若さでヘンリーと共にノーベル賞を受賞しました。この最年少受賞記録ははまだ破られていません。しかし、この若き研究者の未来を約束するはずの賛辞は、ほとんど父ヘンリーに寄せられたため、ローレンスは父に対する鬱屈した気持ちを抱かざるを得なくなります。世間の不当な評価と混同が2人を深く傷つけたのでした。

袂は分かったけれども

以降、2人は研究分野を分け、共同で研究することは避けるようになりました。ローレンスはその後、無機化合物やケイ酸塩化学、X線によるタンパク質の構造に興味を向け、DNAの二重らせん構造発見のきっかけを作り、今もX線結晶学の父として尊ばれています。曰く、「科学は一種の芸術であり、研究は冒険であり、人生は情熱を持って生きる実験の旅である」。晩年は穏やかな交流を父とも図り、父と同じく、年齢81歳の最期まで研究に、教育に、仕事に生きたローレンスでした。



お願い

カスタマーサービス課より

年度末の特別なご依頼について

まもなく新年度を迎えようとしております。ルクセルバッジサービスに関しましても、人事異動による追加・取消等の手続きと共に、年度末に伴う特別なご依頼（至急測定等）が生じることと存じます。以下にその手順を記載いたしますのでご参照ください。

測定結果を至急にお知りになりたい場合

- ・ バッジを投函、発送する前にカスタマーサービス課までご依頼内容を電話にてご連絡ください。
- ・ 封筒または箱の表に「至急測定」と朱書きし、速達郵便または宅配便でご返送ください。

・ ご返送の際は、**バッジと同一着用期間の「バッジ測定依頼書兼登録変更依頼書」**を必ず同封してください。

国公立機関等で、被ばく線量がお客様のご指定された値を超えた方についての連絡を希望されるなど、特別なご依頼がある場合

- ・ バッジを投函、発送する前にカスタマーサービス課までご依頼内容を電話にてご連絡ください。
- ・ 測定に関する特別なご依頼事項の内容と連絡先をメモ等に明記し、バッジと共にご返送ください。

ご案内

ルクセルWeb がつながり易くなりました

お客様ご自身がインターネットでバッジの追加・変更ができる「ルクセルWebサービス」が簡単に、かつお客様のPC環境に負荷を与えず設置できます。従来のIPSec-VPN接続方式に加えて、今回、IPアドレス重複等の問題から脱却したSSL-VPN方式も用意いたしました。

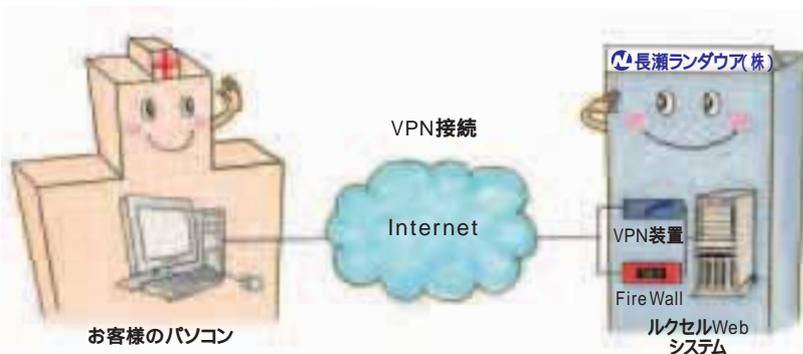
ご興味をお持ちのお客様は、ぜひ、当社カスタマーサービス課までご連絡ください。詳しい資料の送付と

設定のお手伝いをいたします。

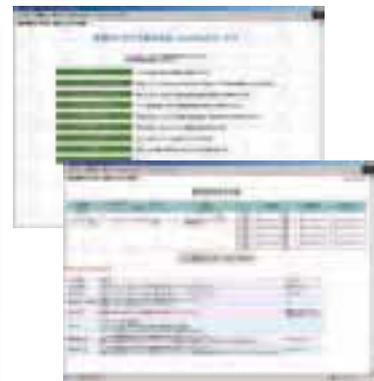
[主なサービス内容]

- ・ バッジの追加、変更、取消など
- ・ バッジ登録された方全員の氏名、積算線量等の確認
- ・ 電離放射線健康診断個人票の記入に役立つ、被ばく線量集計表の印刷
- ・ 被ばく線量の証明書になる積算線量票の印刷
- ・ 年度別個人別算定記録票の印刷

ルクセルWebサービス 接続イメージ



入力画面



SSL-VPNクライアントソフトの対応OS Windows2000Pro SP4/XP 推奨ブラウザ / Internet Explorer6.0SP1以上
IPSec-VPNクライアントソフトの対応OS Windows98/2000/Me/NT/XP 推奨ブラウザ / Internet Explorer5.5以上

編集後記



春3月、風も空も柔らかな空気を運んできます。街も人もパステルカラーに塗り替えられて花が舞うようです。さて、フィルムといえば、当社もルクセルバッジの前身であるフィルムバッジで大変お世話になりました。無声映画には負けませんが、こちらも懐かしい限りです。枕草子ではなつかしきものとして手紙が挙げ

られていますが、ふとした折に見つける親しい人からのものは勿論、音信不通になっている人からの手紙や出されなかった手紙なども当時の記憶を生々しく再現します。まるでちょっとした私小説のようです。この季節、古きものを潔く切り捨て、新しき旅立ちへと逸る気持ちもありまじょうが、たまには振り返って己の歩いてきた道の地固めをしてもよいかもしれません。 (太田 敬子)

長瀬ランダウア株式会社ホームページ・Eメール

<http://www.nagase-landauer.co.jp>
e-mail: mail@nagase-landauer.co.jp

当社へのお問い合わせ、ご連絡は

東京 Tel.03-3666-4300 Fax.03-3662-6096
大阪 Tel.06-6535-2675 Fax.06-6541-0931

NLだより No.351
平成19年 3月号

毎月1日発行 発行部数：30,000部

発行 長瀬ランダウア株式会社
〒103-8487
東京都中央区日本橋久松町11番6号
発行人 中井 光正